

学習支援センターで個別指導を受ける学生の動機づけ

遠山孝司^{1) 2)} 押木利英子^{2) 3)} 内山 渉⁴⁾
若井和則²⁾ 菅沼松一⁵⁾ 船山澄子²⁾

¹⁾新潟医療福祉大学健康スポーツ学科 ²⁾新潟医療福祉大学学習支援センター ³⁾新潟医療福祉大学理学療法学科 ⁴⁾新潟総合学園 e ラーニング推進室 ⁵⁾新潟医療福祉大学総務部

【背景】

「学生全員の学習の質の向上」を目指す新潟医療福祉大学学習支援センターではスタディスキルズはじめ専門科目理解のための専門基礎指導、個別の学修相談・指導などを企画し実施している。これらの活動は、学生の大学内での学習や将来の就業に向けての動機づけを高めることを企図するものであり、センターの指導の効果を動機づけの観点から検討する必要がある。また、センターの指導についても指導の種類による学生の差異を検討する事でよりよいサービスの提供につながるものと思われる。そこで本研究では、センターの利用形態による学生の動機づけの差異を検討する。

【方法】

平成 26 年度前期にセミナーの受講者を対象にして実施の学習の動機づけアンケート調査（セミナー及び個別指導の利用も同時調査）結果をもとに、セミナーのみの利用（個別指導なし）、セミナーの利用と個別指導を利用（個別指導あり）に分類し、利用形態による動機づけ得点の差異を検討した。動機づけアンケートは動機づけの先行研究を参考に、学習動機づけ尺度¹⁾の下位尺度である「内的動機づけ」「実用・職業志向的動機づけ」「手段的学習動機づけ」の各 3 項目、達成動機づけ尺度²⁾の下位尺度「社会的達成欲求」「個人的達成欲求」「挑戦・成功欲求」の各 3 項目、特性的自己効力感尺度³⁾の 5 項目、計 23 項目から構成した。項目内容については先行研究での因子負荷量と調査目的に対する内容的妥当性から選抜し、全ての項目に対して 4 件法での回答をもとめた。動機づけの各尺度得点について、性別ごとに個別指導あり群と個別指導なし群の間に差があるのかを t 検定を用いて検討した。

【結果】

期間：平成 26 年 3 月 31 日から 5 月 31 日。調査数：506 人から回答を得たが、動機づけアンケートに対する回答に不備

表 1. センター利用者の利用形態別（セミナーと個別指導）動機づけ得点

	個別指導	全体		女性		男性				
		N	平均値	S.D.	N	平均値	S.D.	N	平均値	S.D.
内的動機づけ	無	437	2.09	0.65	325	2.06	0.58	108	2.19 *	0.83
	有	44	2.07	0.58	40	2.09	0.60	4	1.83	0.19
実用・職業志向的動機づけ	無	437	3.38	0.46	325	3.40	0.44	108	3.34	0.51
	有	44	3.48	0.44	40	3.48	0.44	4	3.25	0.50
手段的学習動機づけ	無	437	3.25	0.43	325	3.25	0.41	108	3.27	0.48
	有	44	3.20	0.51	40	3.23	0.51	4	3.00	0.47
社会的達成欲求	無	437	2.98	0.52	325	2.93 +	0.49	108	3.11 +	0.60
	有	44	3.05	0.46	40	3.09	0.45	4	2.58	0.32
個人的達成欲求	無	437	3.23	0.48	325	3.23	0.47	108	3.21	0.53
	有	44	3.26	0.49	40	3.26	0.49	4	3.00	0.47
挑戦・成功欲求	無	437	2.74	0.56	325	2.69	0.52	108	2.90 *	0.65
	有	44	2.63	0.52	40	2.68	0.50	4	2.17	0.58
特性的自己効力感尺度	無	437	2.65	0.52	325	2.68	0.45	108	2.57	0.68
	有	44	2.75	0.41	40	2.74	0.40	4	2.90	0.48

※個別指導の有無による差の有意確率は + p < .10. * p < .05 である
※4名は性別不明である

があったデータを除外し、1 年生 252 人、2 年生 116 人、3 年生 108 人、4 年生 1 人、学年不明 4 人の計 481 人の回答を対象に分析を行った。全体と男女別の利用形態による動機づけ得点の記述得点を表 1 に示す。利用形態による動機づけ得点に有意差およびその傾向が見られたのは、女性の社会的達成欲求 ($t(363) = 1.95 p < .10$)、男性の内的動機づけ ($t(8.38) = 2.87 p < .05$)、社会的達成欲求 ($t(110) = 1.74 p < .10$)、挑戦・成功欲求 ($t(110) = 2.25 p < .05$) であった。

【考察】

学習支援サービスであるセミナーを利用する学生と、セミナーと個別指導の両方を利用する学生の間に動機づけの差異またはその傾向があることが明らかにされた。女性は他者からの賞賛を求める「社会的達成欲求」が高い学生がセミナーと個別指導の両方を利用するのに対し、男性はセミナーのみ利用する学生の方が「社会的達成欲求」が高い傾向が示された。また、男性は、セミナーのみ利用している学生の勉強自体を楽しんでいる「内的動機づけ」と仕事や職業、専門分野で成功したいと考える「挑戦・成功欲求」が高いことが示された。動機づけの高い女性がセミナーと個別指導の両方を利用し、動機づけの高い男性がセミナーのみを利用するという傾向は、性別による有効な学習支援サービスの差異や学生の性別を考慮した学習支援サービスの提供について今後さらに検討する必要があることを示すものである。

【結論】

学習支援センター利用の形態によって男女とも動機づけに差異またはその傾向が認められるが、差異の方向性が性別によって異なり、利用指導については性別を考慮した上で行う必要性が示唆された。やる気のある男子学生が個別指導のサービスを受けない傾向については、今後、学習支援サービスを利用しない学生も含めた成績の変動や成績の性差について検討し、男子学生に対する動機づけを下げない個別学習指導サービスのあり方を含む支援策の改善が今後の課題といえる。

【文献】

- 1) 大芦 治. 中学生のタイプ A 行動パターンと学習動機づけ、勉強時間との関係. パーソナリティ研究 2004;13:58-66.
- 2) 堀野 緑. 達成動機の構成因子の分析—達成動機の概念の再検討—. 教育心理学研究 1987;35:148-154.
- 3) 成田健一, 下仲順子, 中里克治, 河合千恵子, 佐藤真一, 長田由紀子. 特性的自己効力感尺度の検討. 教育心理学研究 1995;43:306-314.

【付記】

本研究は平成 26 年度新潟医療福祉大学研究奨励金（学長裁量研究）にて行われたものである。また、平成 25, 26 年度学習支援センター運営委員会の全委員のご協力に感謝する。